

こんな時こそ、学校に元気、子どもに元気、先生に元気を！

不登校解消に向けて — 常陸大宮市立第二中学校の取組 —



大宮二中では、今年度「笑顔にあふれ ひとみ輝く 活力ある学校づくり」を研修テーマに、「生徒の個性を伸ばし、一人一人が輝くことを大切にするとともに、生涯にわたって学びを進められる生徒の育成」を目指して日々取り組んでいます。本校の年間30日以上欠席の不登校生徒の割合は、平成18年度以降茨城県の平均を上回ることがほとんどでした。また、学年に不登校の生徒が出ると連鎖的に学校を休む生徒が出て、不登校生徒が増えるといった現象もありました。

こうした中、平成21・22年度に不登校解消支援教員が配置され、「不登校生徒を学級担任や学年主任だけに任せっきりにしない」ことを基本に、不登校解消に向けての取組が組織的、かつ積極的に行われました。以下は、その取組の様子です。

1 校内指導体制の確立

不登校解消支援教員をコーディネーターとして、市教委指導主事、スクールカウンセラー、市支援センター相談員・カウンセラー等との連携を強化する。

2 情報の積極的な提供

不登校解消支援教員が「生徒指導(不登校)報告」を毎週作成・配付する。

3 不登校対策委員会と研修会の開催

不登校対策委員会では、不登校生徒個々への支援方針及び支援計画、支援経過等について共通理解を図り、支援チームが効果的に機能するようにするとともに、研修会では、講師を招いて不登校生徒に関する理解を深める。

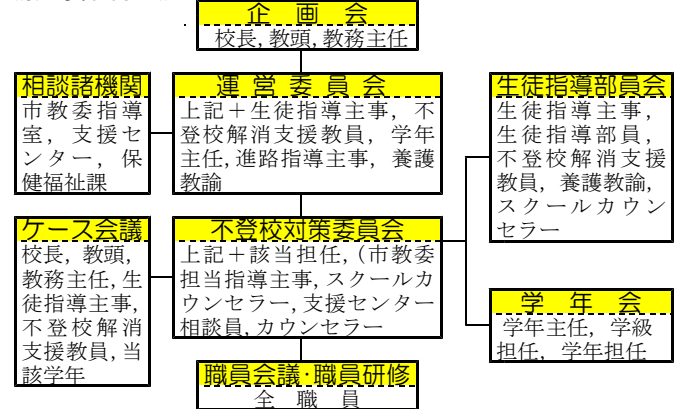
4 スクールカウンセラーによる1年生への個別面談の実施

1年生全員を対象に昼休みや放課後、一人10分程度、個別面談を実施する。

5 不登校の予防的な取組に関する研修の実施

生徒のライフスキルとコミュニケーション能力を高めるための職員研修を実施し、生徒が充実した学校生活を送ることができる学校づくりを推進する。


《指導体制図》



不登校生徒を抱える学級担任が『個別の支援計画』を作成し学年で検討して、全職員で共有するとともに、「ケース会議」で今後の方向を探り、改善を図っていくようにしました。不登校解消支援教員は、正確な情報の集約と発信に努め、全職員に意図的に不登校解消への意識付けを行い、不登校を他人事とせず、役割分担を明確にして、不登校生徒により多くの職員がかかわれるようにしました。また、一方で、養護教諭やスクールカウンセラーの考えで相談室の雰囲気を変え、職員が進んで相談室に立ち寄り、対象生徒に自然に声をかけるようにするなど、「不登校生徒から逃げない」態勢づくりをしました。学級担任の不登校生徒を受け入れる地道な学級づくりやリーダーの育成、管理職の効果的なサポートもあり、学校全体が不登校解消に向けてうまく機能しました。

職員の一一致した考えと行動による『チーム力』で、「家庭で満たされない生徒の心が、学校で満たされた」ことが、学校への信頼を生み、結果として「30日以上の不登校生徒ゼロ」を達成したと言えるのではないのでしょうか。

学校の窓



や校に通 | 対を | かも大 | での常
すの潜事地ナ | 応活 | 震は、
いよむ故震 | でき用 | 災 | 陸
こう危な・ | 『 | 』 | 時、
こに | 『 | 』 | 危 | 三
が具へ、 | 『 | 』 | 機 | 月
第体の子・置 | 『 | 』 | 対 | 大
一的対ど不 | 『 | 』 | 理 | 宮
でで応も審 | 『 | 』 | へ | 市
す分はの者 | 『 | 』 | 一 | 立
すか、周・ | 『 | 』 | 日 | 二
り本 | 『 | 』 | 大 | 日
 | 『 | 』 | 賀 | 小
 | 『 | 』 | 省 | 学
 | 『 | 』 | 市 | 校